

2013/08/11 礼拝メッセージ 近藤修司 牧師

主 題：クリスチャン 4

聖書箇所：コリント人への手紙第一 1章5節

「私たちが神の子どもと呼ばれるために、...御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょう。」(Iヨハネ3：1)と、ヨハネはこのように言っています。私たちがこの救いに与るに当たって、神がどんなに大きな愛を示してくださったのか、そのことをいつも覚えることは私たちクリスチャンにとって大切なことです。主がどれ程大きな犠牲をあなたの救いのために払ってくださったのか、そのことをいつも覚えることは非常に大切です。なぜ、それを覚えることが大切なのか？私たちが神に救われたことを覚えてそのことを感謝しているなら、間違いなく、それが私たちの信仰の原動力となるからです。主に喜ばれる歩みを歩み続けていくための動機になります。主のおことばである聖書の教えに忠実に歩み続けて行くための正しい動機になります。なぜなら、私たちが絶対に失ってはならない動機というのは、主への愛、神への愛です。神を愛するから私たちは従って行こうとします、神を愛するから神が喜ばれることをして行こうとします。神を愛するから、私たちは喜んで奉仕をしようとしています。神を愛するから託されている家庭におけるいろんな責任を喜んで果たそうとします。私たちがすべてのことをするのは神を愛するからであり、それなら、神が私のためにどんなことをしてくれたのかを覚えることです。私たちがあの十字架を見た時に、父なる神が私のためにどんなに大きな犠牲を払ってくれたのか？どんな大きな愛で私たちは愛されているのか？そのことを私たちはしっかりと覚えなければいけません。

イギリスの讃美歌の父と言われているアイザック・ワット、彼はたくさんの讃美歌を書きましたが、その中でも私たちがよく知っているのは142番です。こんな歌詞です。1. 栄えの主イエスの十字架を上げば、世の富誉れは塵にぞ等しき。2. 十字架の他には誇りはあられ、この世のものみな消えなば消えされ。3. 見よ、主の御頭御手御足よりぞ、恵みと悲しみこもごも流る。4. 恵みと悲しみひとつに溶け合い、いばらはまばゆき冠と輝く。5. ああ主の恵みに報いるすべなし、我が身と霊とをささげてぬかずく。この5番は「讃美歌21」ではこのようになっています。「ああ、主の恵みに答うる道なし、わが身のすべてを主の前にささぐ。」と。この当時のイギリスは詩篇を歌っていました。こんな讃美歌はなかったのです。アイザック・ワットは自分たちの信仰の思い、主のすばらしさを曲にしました。そして、世界中でその曲が歌われたのです。今、私たちもこの曲を歌う時に、私たちも主イエス・キリストの十字架を見上げて、いったい、この恵みに対して、この神の愛に対して、この犠牲に対してどのように答えていこうかと考えます。それに正しく答えるには一つしかありません。自らのすべてを、もうすでに神にささげたのですが、今一度、そのすべてを主にささげて主のみこころを行なっていくことです。そのようにして信仰者は、私たちの先輩である信仰の勇者たちは生きて来たのです。主の恵みを覚え、そして、その恵みに答えようとしたのです。

パウロがしていることと同じなのです。パウロはコリントのクリスチャンたちに「あなたたちはもう一度、しっかりと目をイエスの十字架に向けなければいけない。あなたたちはしっかりと神があなたに与えられたその祝福を覚えなければいけない。」と言います。なぜなら、その祝福を覚えることによって、私たちの生き方にそれが繁栄されていくからです。だから、彼は10個のクリスチャンに与えられた祝福をこの1章に記しているのです。

彼が私たちに言ったことは、当然、一義的にはコリント教会のクリスチャンたちに対してですが、クリスチャンとは、

1. 神に属する者 2節
2. 神によって罪が完全に聖められた者 2節
3. 神から恵みと平安をいただいた者 3節
4. 神によって罪から救い出された者 4節
5. 神によって祝福された者 5節

神は私たちに大変な祝福を与えてくださったと、パウロはこの1章5節で私たちに教えるのです。神はクリスチャンをその罪から永遠の滅びから救ってくださった。でも、それで終わったのではなくて、救われたあなたを神は成長させていってくれと、そのことがこの5節に記されていました。5節に「**というのは、あなたがたは、ことばといい、知識といい、すべてにおいて、キリストにあって豊かな者とされたからです。**」とあります。パウロは私たちクリスチャンは神から大変な祝福をいただいたゆえに豊かな者だと教えます。私たちはその祝福によって富んだ者になったと言うのです。私たちはどんな祝福を頂いたのか、もうすでに5節の中で見て来ました。

1) すべてにおいて

私たちは神はこの地上においてありとあらゆる必要を満たしてくれるという約束を見て来ました。イエスを信じて罪の救いに与ったクリスチャンであるあなたは、神から約束を頂きました。この地上の信仰生活においてすべての必要が与えられ続けていくという祝福です。それは心の内面的な必要だけでなく、物質的なすべての必要も与えられるということです。繰り返しますが、あなたの欲しいものが与えられるとは言っていません。あなたの必要が与えられると神は約束されたのです。だから、私たちはこの神にあって本当の満足を持って生きることが出来る、それが神の約束でした。

同時に、私たちは永遠の天国に入るためのありとあらゆる必要が満たされているということを知っています。この地上での生活が終わった時に、神はあなたを天国に導いてくださるのです。なぜなら、もうあなたは天国民として生きる者に変えられたからです。天国に入るために必要なことはもうすべて神がくださったのです。だから、パウロは「**私たちはキリストにあって富んだ者、すべてにあって豊かな者である。**」とそのように言ったのです。

5節をよく見て頂きたいのですが、「**あなたがたは、...すべてにおいて、...キリストにあって豊かな者とされたからです。**」と記されています。しかし、なぜ彼は「**ことばといい、知識といい、**」ということばを付け加えたのでしょうか？「すべて」と言えばそのすべてが含まれるはずですから...。しかし、パウロは敢えて「**ことばといい、知識といい、**」と二つの点を特筆しています。なぜでしょう？実は、これら二つのことがクリスチャンにとって非常に重要だからです。クリスチャンであるあなたにとって、あなたのことばや知識が非常に大切だと言うのです。ここでパウロが教えようとしていることは、確かに、すべての必要が満たされたと言い、そして、あなたのことばにおいてあなたが成長していくために、つまり、神が喜ばれることを常に語るような人としてあなたが成長していくために、すべての必要が満たされているということです。そして、あなたが知識においても、神を知れば知るほど神のみこころを知るのです。その知識においてもあなたが成長していくためにすべての必要が与えられていると言います。パウロは敢えてそのことを強調するのです。今から見ていきますが、なぜ、私たちにとってのことば、知識が大切なのか？みことばを見ていきましょう。

2) ことばにおいて

パウロは「クリスチャンであるあなたはことばにおいて成長する」と言います。あなたのことばが変えられていくということです。あなたが神に喜ばれることばを語る者に成長していくということです。神がお喜びになることば、また、神がお喜びにならないことばが存在していることはもうすでにあなたはご存じです。今から幾つか上げていきます。

(1) 神がお喜びにならないことば

このようなことばがあなたの口から出てくることを神はお喜びにならないのです。今から見ていくのはソロモンが与えてくれた箴言のみことばです。

a) 真実を歪曲したことば

箴言 8 : 13 「【主】を恐れることは悪を憎むことである。わたしは高ぶりと、おごりと、悪の道と、ねじれたことばを憎む。」、今、注目したいのは「ねじれたことば」です。「正しい道から離れる、正しい道を捨てる」ということです。このことばは箴言の中に8回出て来ます。特に、6章14節を見ると「そのねじれた心は、いつも悪を計り、争いをまき散らす。」とあります。「ねじれたことば」と「ねじれた心」が非常に関連していることが分かります。ですから、「ねじれたことば」は「ねじれた心」から出て来るのです。つまり、正しい道から離れている、正しい道を捨てている、そのような間違った悪い思いから、ねじれた正しくないことばが出て来るのです。ですから、事実でないことを言ったり、人の悪いことを言うてしまうということもそこには含まれるでしょう。

b) 自分の知恵によって語ることば

箴言 18 : 2 「愚かな者は英知を喜ばない。ただ自分の意見だけを表す。」。「英知を喜ばない」から「愚かな者」だと言うのです。神の前に愚かな人は英知を求めない、神の知恵を求めないのです。この人は神の知恵を求めずに自分の考えを語りたいのです。「私はこう思っている。私はこう考えている。」と...。その結果、18 : 6 「:6 愚かな者のくちびるは争いを起こし、その口はむち打つ者を呼び寄せる。」。つまり、神の知恵を無視して自分の考えを語る時に起こって来るのは様々な争いであると言います。なぜなら、神の知恵を求めて語らなければ、言うべきでないことを言うてしまうからです。そして、その結果、様々な問題が生じるのです。7節に「愚かな者の口は自分の滅びとなり、そのくちびるは自分のたましいのわなとなる。」と続きます。経験ありませんか？ことばによって失敗してしまうこと、ことばによっていろんな問題に陥ってしまうことが...。言い方を変えると、私たちに必要なのは神の知恵です。そのことはまた後で見ていきます。

c) 陰口

箴言 26 : 20-21 にソロモンがそれに関してこのように記しています。「たきぎがなければ火が消えるように、陰口をたたく者がなければ争いはやむ。:21 おき火に炭を、火にたきぎをくべるように、争い好きな人は争いをかき立てる。」。この「陰口」というヘブライ語は「ささやき、つぶやき」という意味を持ったことばです。分かり易いことばで言うなら「ゴシップ」です。特に、ここで「陰口」というのは、本人に全く知られないようにして、少人数の間かもしれない、そこでささやいたりつぶやいたりするのです。何をつぶやくのか？「悪口」です。ソロモンが言うのは、そういう人がいなくなれば争いや問題がなくなるということです。そのようなことが起こっているからいろんな問題が生じていると言います。私たちが覚えなければいけないのは、クリスチャンである皆さん、このような人に対する陰口というのは、神が憎んでおられます。なぜなら、ローマ人への手紙1章で、パウロはクリスチャンでない人たち、神を知らない、救いに与っていない人たちの特徴を記していますが、29節に「彼らは、あらゆる不義と悪とむさぼりと悪意とに満ちた者、ねたみと殺意と争いと欺きと悪たくみとでいっぱいになった者、陰口を

言う者、」とあり、30節に「そしる者」と続いているからです。「陰口を言う者」、新約聖書ですからギリシャ語で記されていますが、一番分かり易い訳は「ゴシップをする人たち」です。

ここで使われていることばは「ささやく、悪口する、讒言（ざんげん）する」ということばで、他人を陥れようとして事実を曲げ、偽ってその人の悪いことを人々に告げることです。そのようなことばがここで使われているのです。想像できるでしょうか？だれかがだれかの悪口を言っているのです。だれかが成功することを望まないで、逆に、その人たちが失敗することを望んで、悪いことを言いふらしてしまうのです。なぜ、神がそのような陰口を喜ばれないのか？今話して来たように、この陰口は救われていない人たちの特徴だからです。まだ神の子どもではなくてサタンの子どもの子供であって、サタンに用いられていた、サタンの手先であった時の生き方がこのような生き方だったからです。クリスチャンであるあなたはそこから救い出されたのです。ですから、もし、そのような陰口を信仰者であるあなたが為すなら、神は大変心を痛めておられるのです。私たちはそのことを覚えなければいけません。Ⅱコリント12：20に「私の恐れていることがあります。私が行ってみると、あなたがたは私の期待しているような者でなく、私もあなたがたの期待しているような者でないことになるのではないのでしょうか。また、争い、ねたみ、憤り、党派心、そしり、陰口、高ぶり、騒動があるのではないのでしょうか。」とあります。パウロはコリント教会のことをこのように危惧していました。

そのように陰口をするような人たちに神からの祝福はないということは箴言16：28に「**ねじれ者は争いを巻き起こし、陰口をたたく者は親しい友を離れさせる。**」とソロモンは言っています。人の悪口ばかり言っている人に人は近づいていきません。そんなことは聞きたくないからです。そんなことを聞いているとだんだん不愉快になって来ます。だから、親しい友がその人から離れていくというのです。そのようにして祝福を逃すのです。

d) 誹謗、中傷

陰口を語る者たちを神が憎んでおられることは明らかですが、また、あるオープンで大きな場で人を誹謗中傷する人たちも神に喜ばれません。箴言26：28「**偽りの舌は、真理を憎み、へつらう口は滅びを招く。**」、「偽りの舌」とは「偽りを語る人、事実でないこと、悪いことをだれかに告げるような人たち」です。この人たちの問題は、みことばが言うように「真理を憎んでいる」、つまり、神の前に正しくあろうという願いがないのです。たとえ、真理を知ってはいても自分の意志で真理に逆らい続ける選択をしているのです。なぜ、こんなことが起こっているのか？28節の文脈を見ると次のことが分かります。24－26節「**憎む者は、くちびるで身を装い、心のうちでは欺きを図っている。:25 声を和らげて語りかけても、それを信じるな。その心には七つの忌みきらわれるものがあるから。:26 憎しみは、うまくごまかし隠せても、その悪は集会の中に現れる。**」、つまり、ソロモンは、このように人を悪く言うその原因になっている思いはその人たちに対する憎しみだと言うのです。だれかに対して憎しみを抱いているならば、その人が失敗することを望みます。その人に不幸が訪れることを望みます。そのことをここでソロモンは私たちに言っているのです。憎しみを抱いているから、その人の評判を台無しにしようと誹謗中傷すると言うのです。

今、私たちはこうして神がお喜びにならないことばを見て来ました。信仰者の皆さん、みことばが私たちに教えることは、かつてのあなたはそのような生き方をしていたでしょう。でも、あなたはそこから救い出されたのであって、救い出されたあなたを神は変えて、あなたのことばを変えて、神がお喜びなることを語る人へと成長させてくれると、これが神がクリスチャンのうちに始められた働きです。そこで、ペテロが旧約聖書のみことばを引用して記している箇所を見ましょう。Ⅰペテロ3：10－12

「いのちを愛し、幸いな日々を過ごしたいと思う者は、...」、つまり、この地上にあって神の豊かな祝福を頂いて生きていくためにはどうすればいいのか？「舌を押さえて悪を言わず、くちびるを閉ざして偽りを語らず、:11 悪から遠ざかって善を行い、平和を求めてこれを追い求めよ。:12 主の目は義人の上に注がれ、主の耳は彼らの祈りに傾けられる。しかし主の顔は、悪を行う者に立ち向かう。」と、このことに尽きませんか？もし、あなたが神からの豊かな祝福を頂きながらこの地上のクリスチャン生活を全うしていきたいと思うなら、このみことばにしっかりと目を留めなければいけないのです。みことばは繰り返して私たちに教えます。「ことばに注意しなさい。ことばで罪を犯してはいけません。」と。神が喜び、神が祝す人たちは「舌を押さえて悪を言わず、くちびるを閉ざして偽りを語ら」ない者たちであり、神が喜ばれる人は神の前に善を行う人たち、神が喜ばれることを行なう人たちです。

結論：

こうしてみことばは私たちに教えてくれます。このようなことばを神は憎んでおられると。そのようなことばがあなたの口から出て来ないようにと言います。でも、現実には悲しいことに、このようなことばが口から出て来たり、また、今出て来たリストを私自身が行なってしまうことを経験しているはずで、私たちは本当に弱い者です。本当に罪深い者です。ですから、今、どうすれば勝利できるのか？これから六つのことを挙げますから、是非、実践してみてください。

☆どのように勝利するか？

a. 正しいことを行なう選択をする

あなた自身が「私はあなたの前に正しいことを行なっていきたくて」と、その決心をすることで、そこから始まるのです。そのために、まず、私たちは自分の罪を神の前に悔い改めることが必要です。「神さま、私はことばによって罪を犯して来ました。赦してください。私はあなたの前にあなたが喜ばれることを語っていきたくて、あなたが望まれることを語っていきたくて。どうぞ、あなたの前に正しいことを行なわせてください。」と。ローマ12：17にこのように記されています。「だれに対しても、悪に悪を報いることをせず、すべての人が良いと思うことを図りなさい。」と。21節にも「悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい。」とあります。嫌なことを言う人がいるかもしれない、あなたが傷つくようなことをする人がいるかもしれない。しかし、神があなたに問われていることは、その中で正しいこと、神がお喜びになることをやりなさいです。それがあなたの責任だと言われます。感謝なことに、神はそのあなたを助けてくださいます。でも、まず、私たちが決心しなければいけないことは「神さま、私はあなたの前を正しく歩んでいきたくて」ということです。

b. 主の助けを頂く

神の助けを頂くことです。正しいことをしていこうとどんなに私たちが決心をしても、自分の力でそれが出来るでしょうか？ご存じのように出来ません。だから、備えられた神の助けを頂いてそれを実践するのです。力は私たちのうちにあるのではなくて、神のうちにあるのです。パウロはピリピ人への手紙2：13にこのように記しています。「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、...」、つまり、神が私たち信仰者のうちに「このように生きていきたくて」と願うように働くのです。皆さんが神のおことばを聞くと、内在している聖霊は「神さま、私はこの聖書が教えてくれるように、このみこころのように生きていきたくて」という願いを皆さんのうちに与えてくれるのです。あなたが神の前を正しく歩んでいるなら、確実に、神はそのような願いをあなたに与えてくれるのです。パウロが言うように「あなたのうちに志を立てさせる」、そのように歩んでいきたくてという思いをくださるのです。

みことばはそれで終わっていません。このように続いています。「...事を行わせてくださるのです。」と。神がしてくださるのです。そのように生きていきたいという願いをくださるのも神だし、それを実践させてくださるのも神だとパウロは教えているのです。ここに力があるのです。ですから、信仰生活はその備えられた神の力を頂きながら、神のみこころを実践して行くことです。ですから、私たちがこのようなことばによる失敗、罪から勝利しようとするなら、神の助けを頂かなくてはいけないのです。

c. みことばの学び

私たちはみことばをしっかりと学ぶことが必要です。ペテロは1ペテロ2：1でこのように言っています。「ですから、あなたがたは、すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、2 生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。」と。ですからペテロは、神の前に間違っただけを捨てなさい、そして、神の前に喜ばれること、あなたにとって益となることを選択して生きて行きなさいと教えるのです。それは、みことばを慕い求めること、みことばを愛し、みことばを学び、みことばによってあなたが変わられていくことです。みことばはその力をもっているし、その働きをあなたのうちに為すのです。神に喜ばれる人へと変えられていくために、聖書のみことばをしっかりと蓄えて、このみことばを正しく理解し、みことばに従って行くことが必要です。

「それによって成長し、救いを得るためです。」と言います。「救いを得る」とは「罪からの救い」のことではないことを皆さんご存じです。救いというのは罪の赦しで終わるのではありません。その後も継続するのです。私たちは救いと聞くと、罪からの救いで終わってしまうように思いますが、それで終わりません。その後も継続します。あなたをキリストに似た者に変え続けていくこと、それも救いの働きなのです。ですから、ペテロが言っていることは罪からの赦しのことではなく、救われたあなたがキリストにあって成長していくことです。そのためには神のおことばが必要だと言います。

d. 祝福を祈る

すべての人を同じように愛することができたらどんなに幸せかと思えます。しかし、現実はそのがなかなか難しいことを私たちは知っています。思いませんか？人間がいなかったら問題は存在しないのです。しかし、神はそのようにはデザインなさいませんでした。いろんな人がいます。その中にあって私たちはどうしたらいいのか？のろうのではなくて、悪を願うのではなくて、その人たちを祝福して上げなさいと教えます。1ペテロ3：9に「悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。」とあります。ローマ書12：14では「あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福すべきであって、のろってはいけません。」とされています。たとえ、迫害する者であっても祝福しなさいと言います。そのような人は私たちの周りにいません。だから、私たちはすべての人を祝福するのです。そのためにあなたは召されたのだと言います。1ペテロ3：9の後半に「あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。」とある通りです。つまり、私たちクリスチャンは人々に祝福をもたらすために救いに与ったというのです。のろいをもたらすためではないのです。ですから、その人たちの上に神の祝福があるように祈ってあげることです。あなたの肉、あなたの罪はそれに賛成しません。そんなことをすべきではないと。でも、私たちは神によって救われた者として、その人たちの上に神の祝福があるように祈るのです。

e. 主の愛を覚える

私たちが覚えなければいけないのは、どんな愛でもって自分が愛されたかということです、そこから始まるのです。ヨハネは1ヨハネ4：10でこのように言っています。皆さんよくご存じです。「私たち

が神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」、私たちが神を愛したのではない、神が一方的に私たちを愛し、私たちのために救いを備えてくださり救いへと招いてくださったのです。その後11節には「愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。」とあります。私たちがなかなか愛することが出来ないのは、もしかすると、私たちがどんなに愛されているのかということをおぼえてしまっているからかもしれません。だから、いつも私たちはどのような大きな愛で犠牲的な愛で愛されているのかを覚えていなさいと言います。イエスの愛を覚える時に、その愛によって人々を愛するようになっていく。ですから、主の愛を覚えなさいと言います。

f. 主を恐れる

ここにおられるすべてのクリスチャンは、必ず神の前に立ちます。この中にいるクリスチャンでない皆さんも神の前に立ちます。すべての人間は神の前に立ちます。神に逆らい続け、この救いを拒み続けた人たちは、神の前に立ってすべての罪が明らかにされて、その罪にふさわしい永遠のさばきを受けます。しかし、そのさばきから救われた私たちクリスチャンは、同じように神の前に立って神から褒美を頂きます。でも、その時に思いませんか？神の前に立った時に「私の信仰生活はどうだったのか？神がこんなに大きな犠牲をもって私を罪から救ってくださった。その主に対して私はふさわしく生きて来たのかどうか？私は私の人生を無駄にして来なかったかどうか？私は本当にこの救いを神から頂いた者として、その感謝を現わす生活をして来たかどうか？」と。

神の前に立つことを覚えている人は、今日という日を神の前を正しく喜ばれる歩みをして行こうとします。なぜなら、神の前に立った時に後悔しないためには、備えていなければいけないからです。神の前に立った時に「しまった！」と思わないためには、備えていなければなりません。突然、だれか来客が来る、いつ来るか分からないけれど、今日来るかもしれないと備えていなければいけません。私たち信仰者に必要なことは「今日どう生きるか」です。今日、私たちはイエスの前に立つとしたら、今日という一日をどう生きるかが私たちに課せられた責任です。主を恐れること、私たちは神の前に立ち、すべてのことを見通しておられ、すべてをご存じである神の前で私たちはさばきを頂く。もしかすると、私たちの信仰生活に欠けていることの一つは、この「恐れ」かもしれません。もちろん、リスペクト、畏敬の思いは大切です。しかし、神に対して「恐れる」という思いを持つべきではないでしょうか？よく「平和ぼけした世の中だ」と言われます。戦争が全然ないから…。私たちは終戦記念日を迎えようとしていますが、このような時にテレビは当時のいろんな出来事を放映してくれます。多くの人々が犠牲になった、大変な悲しい出来事だった、二度とこのようなことがあってはならないと思います。このような戦争に関するいろいろなニュースを聞くこの時期に、私たちが考えさせられることは、このような大変なことが繰り返されないために、私たちは何をすればいいのかということです。

私たちが神に対する恐れを抱くことが必要なのは、私たちの罪の問題、争いの原因が私たちに恐れるものがなくなった時に起こるからです。私たちがもし神を恐れているなら、私たちはその神の前に間違ったことをしないでおこうと思います。しかし、このような平和ぼけしまった時にはそのようなことも考えないのでしょうか。「私たちは恐れるものを持たなければいけない」と社会は確かにそう言うでしょう。でも、私たちクリスチャンの世界においても、今の時代は「恵みぼけ」してしまって何でも赦されるからいいと言いますが、決してそうではないということです。私たちのひとり一人の歩みには責任があるのです。私たち信仰者にとって必要なことは「神を恐れること」です。神にふさわしい尊敬の思いとともに、この方は聖い聖なる神であるゆえに、私たちはこの方を正しく畏れるということが必要

でしょう。1ペテロ1：17に「また、人をそれぞれのわざに従って公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、あなたがたが地上にしばらくとどまっている間の時を、恐れかしこんで過ごさない。」とあります。ヨハネもヨハネ3：2-3でこのように言っています。「2 愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。3 キリストに対するこの望みをいただく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。」と。

今見て来たように、このようなことがことばにおける罪を犯さないために必要であることが分かります。皆さんぜひ考えてみてください。箴言8：13「【主】を恐れることは悪を憎むことである。わたしは高ぶりと、おごりと、悪の道と、ねじれたことばを憎む。」と。主に対してこのような恐れを抱いているなら、私たちはいつ神の前に立つか分からないから、私たちは悪から離れていこうとします。ソロモンも今私たちが見て来たメッセージをこのように語ってくれました。申命記5：29には「どうか、彼らの心がこのようであって、いつまでも、わたしを恐れ、わたしのすべての命令を守るように。そうして、彼らも、その子孫も、永久にしあわせになるように。」と書かれています。

今、私たちが見て来たのは「神がお喜びにならないことば」です。では、「神がお喜びになることば」とはどういうことばでしょう？

(2) 主がお喜びになることば

a) 親切なことば

箴言12：25に「心に不安のある人は沈み、親切なことばは人を喜ばす。」と書かれています。親切なことばをかけて上げなさいと言うのです。それは彼らの罪を容認するというものではありません。感謝を現わしたり、人々が喜ぶようなことを口にしなさいと言うのです。なぜなら、先に見たように、私たちは人々に祝福を分け与えるために救われたからです。そのような親切なことばは人を励ましてくれます。心を慰めてくれます。喜びをもたらしてくれます。神がお喜びになっています。

b) 励ましのことば

1テサロニケ5：11に「ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。」とある通りです。私たちは兄弟姉妹を励ますのです。彼らがしっかりと神のために歩み続けるように彼らを励ましていくのです。5：14にも「兄弟たち。あなたがたに勧告します。気ままな者を戒め、小心な者を励まし、弱い者を助け、すべての人に対して寛容でありなさい。」とあります。

c) 慰める

1テサロニケ4：18には「こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。」とあります。思い出してください。パウロはこの4章で再臨のことを話しました。そのことにみな動揺していたからパウロは再臨に関する真理を教えたのです。その後でパウロは18節のことば言ったのです。この「慰める」ということばは「励ます、力づける」という意味です。ですから、いろんなことで動揺するかもしれないけれどもクリスチャンたちを励まして、彼らがしっかりとみことばの真理に立って生きていくように力づけて上げなさい、そのようなことばを話す人たちになっていきなさいと言うのです。

d) 神の知恵によって語ることば

神が喜ばれるのは「神の知恵によって語ることば」です。箴言12：18に「軽率に話して人を剣で刺すような者がいる。しかし知恵のある人の舌は人をいやす。」とあります。

***神の知恵が必要**：先程も見たように、自分の知恵で語った時にいろんな争いが起こって来る、問題が起こって来るのです。箴言16：20-21「みことばに心を留める者は幸いを見つける。【主】に拠

り頼む者は幸いである。:21 心に知恵のある者は悟りのある者となえられ、その快いことばは理解を増し加える。」、15：1－2にも「柔らかな答えは憤りを静める。しかし激しいことばは怒りを引き起こす。:2 知恵のある者の舌は知識をよく用い、愚かな者の口は愚かさを吐き出す。」とある通りです。私たちが語る時には神の知恵を頂きながら語る必要があります。

***知恵のある者は、主が喜ばれることを考えながら、正しいことばを選択しながら語る** : 伝道者の書10：12に「知恵ある者が口にする**ことばは優しく、愚かな者のくちびるはその身を滅ぼす。**」とあります。コロサイ4：6には「**あなたがたのことばが、いつも親切で、塩味のきいたものであるようにしなさい。そうすれば、ひとりひとりに対する答え方がわかります。**」と書かれています。知恵のある者のことばは優しい。よく考えて神がお喜びになることを語る人たちです。

***聞き手にとって有益なことば** : その人たちのことばは聞く者たちのうちにすばらしいわざを為すのです。箴言15：23には「**良い返事をする人には喜びがあり、時宜にかなったことばは、いかにも麗しい。**」とあり、ソロモンは正しいことを正しい時に語るなら、語っている人だけでない、その話を聞いている人にも喜びがもたらされると言います。

このようにありたいと思いませんか？語っている人間が喜んでいるだけでない、その話を聞いている人にも喜びが分け与えられると言うのです。どうすればいいのか？正しいことを正しい時に語るのです。間違いなく神の知恵が必要です。ことばで失敗を犯し続ける私たちです。神の知恵をもらうことを学ばないといけないうのです。信仰の勇者たちはそのようにして生きたのです。神の知恵をもらって、神の知恵によって語ったのです。なぜ私たちがそれをしないかです。みことばはそのように教えてくれます。

e) 聞く人にと徳を与えることば

エペソ4：29でパウロは「**悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。**」と言います。これも考えてみなければいけません。私たちが話していることが本当に聞いている人の信仰を高めるものかどうかです。どういうことを私たちは語るべきか、聞いている人の信仰が成長するために絶対に必要なのは、神のおことばです。先程から見てるように、人々が成長するのは神のおことばによるのです。パウロはコロサイ1：28で「**私たちは、このキリストを宣べ伝え、知恵を尽くして、あらゆる人を戒め、あらゆる人を教えています。それは、すべての人を、キリストにある成人として立たせるためです。**」と言って、人々が成長するために私は語っていると言うのです。私たちクリスチャンはそのような働きをすべきだと言います。神の前に祈りながら助けを頂きながら、私たちは私たちのことばをもって、聞く人たちがそれによって成長していくことです。皆さん、今、私たちに不可能なことを言っています。私たちの先輩たちはこのように実践したのです。そこを見落としてしまうなら、このメッセージは自分と全く関係のないものとなってしまいます。

みことばが私たちに教えるのは、旧約であっても新約であっても、神はあなたを救ってくださった、そして、パウロがあなたに教えていることは、神はあなたをこのような人に変えようとしているということです。それなら、あなた自身がそのことを望んでそのような人に変えて頂くことです。その神の働きを邪魔したらいけないのです。「私には無理です、出来ません」と言います。そうして神の働きを自らの罪をもって妨げてしまうのです。神のおことばというのはあなたの心に働くのです。神は「このように生きなさい。これがみこころだ。」と言うのです。私たちはみこころを聞いた時に「それに従います」と言います。感謝なことに、その助けが備えられているのです。ですから、このようなみことばに

よって示されるみこころは、私たちに希望をくれます。神がこんな人に私を変えていってくれるという希望です。その希望を皆さん今持っていますか？こんな人に神は私を変えようとしている、その事実が皆さんの心を励ましていますか？

f) 無言

「黙っていること」です。私たちはすぐに何か語らなければいけないと思います。箴言17：27－28に「自分のことばを控える者は知識に富む者。心の冷静な人は英知のある者。:28 愚か者でも、黙っていれば、知恵のある者と思われ、そのくちびるを閉じていれば、悟りのある者と思われる。」とあり、同じ10：19にも「ことば数が多いところには、そむきの罪がつきもの。自分のくちびるを制する者は思慮がある。」と書かれています。先程見たように、語るべきことを語るべき時に語るのです。ということは、語るべきでないことを語るべきでない時に語ってはいけないのです。時に、私たちは黙っていなければいけない、祈っていなければいけないのです。そのほうが、私たちが望んでいる結果をもたらすことにもなるのです。余計なことを言ってしまって、結局、それで問題を複雑化してしまうことがあります。黙っていることが必要なことがあるのです。

結論：さて、今日、私たちが見て来たのは、神はことばにおいて、あなたのことばが神のすばらしさを証する、そのようなことばを話す人へと神はあなたを成長させようとしているということです。救われたあなたはこのような人に変えられていきますが、今はその過程にあるのです。だから、そのような間違ったことばなどをしっかり見極めて、私たちはそういうものから離れることです。

3) 知識において

もう一つ、私たちが見なければいけないのは「知識において」ということです。なぜ、知識が必要なのか？私たちは何が神に喜ばれることなのか？何が神によって望まれていることなのか？そのことを知るためには知識が必要なのです。神は何を期待しておられるのか？だから、聖書が与えられているのです。個人としてどう生きていくべきなのか？家庭はどのように築いていくのか？夫婦はどうあるべきなのか？すべてのことをこの聖書は私たちに教えてくれています。その聖書を与えてくれた神は、感謝なことに、私たちの周りに教師を与えてくれたのです。牧師たちがそうです。そして、私たち信仰者ひとり一人のうちに聖霊を与えてくれたのです。みことばの真理をしっかりと悟るようと。この知識は私たちに「神のみこころを見い出すことができる」ようにしてくれます。

コロサイ1：9でパウロはこのように言っています。「**こういうわけで、私たちはそのことを聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識に満たされますように。**」と。パウロは、コロサイのクリスチャンたちが神のみこころを正しく理解することを望んだのです。でも、それはどうして可能になるのか？しっかりと真理の知識を得ることによってです。私たちは神が何を望んでいらっしゃるのか、正しい知識を得ます。そして、その神の知識を私たちの日々の生活に生かしていくのです。そのようにして生きるのです。だから、知恵のある人というのは、神のことばをどれだけ知っているかではなく、それが実生活に生かされているかどうかです。みことばは私たちにみこころを教えてください。今日も私たちはどのように生きていけばいいのか、そのみこころを神によって教えられているのです。でも、それをそのように生きていくかどうかは私たちが選択しなければいけないのです。あなたがその選択をして歩んでいく時に、神があなたのうちに働くのです。

結論：

みことばをしっかりと学んでいくのはどうしてか？神のみこころを知るためにです。ですから皆さん、描けますか？

(1) すべての必要が満たされる

(2) ことばと知識において

神はあなたにすばらしい救いをくださった、すべての必要が満たされると言われました。そして、その約束を私たちは頂きました。同時に、私たちのことばも益々変えられて、私たちが本当に神が喜ばれることをいつも語るような人に神はあなたを変えていってくれます。そのための必要のすべてを神は与えたと言うのです。同時に、あなたが常に神の知識によって、神のみこころをしっかりと見極めて、そのみこころに従って生きていく、まさに、神を喜ばせる生き方を継続する、そういう信仰者としてあなたが成長していくために、すべての必要が備えられていると言うのです。驚くべきことをパウロが教えてくれたのです。あなたを罪から救ってそれで終わりではないのです。救ってくれたあなたを神は変えようとしています。成長させようとしています。あなたのことばを変えていこうとされているし、あなたが常にみこころをしっかりと見い出して、そのみこころに従って行くことが出来るように、あなたを変えていこうとされているのです。

驚くべきことは、そのために必要なすべてのものはもうすでに備えられたのです。だから、私たちはこのような人に変えられていくことが可能になったのです。これがクリスチャンなのです。これが私たちに与えられた祝福なのです。是非、あなたに与えられた祝福をしっかりと考えて、しっかりと覚えて、そのように期待しながら、主のみこころに従い続けてください。神は私を変えていってくれる！その約束をしっかりと覚えて、主のみ教えに従い続けてください。神がひとり一人を励ましてくださって、そして、あなたをこの一週間、変え続けてくださることを願います。

《考えましょう》

1. クリスチャンは「ことば」と「知識」において、キリストによって豊かな者とされたパウロは言いました。その意味を説明してください。
2. どのような「ことば」を語るクリスチャンになることを、神はあなたに望んでおられるのかをお書きください。
3. そのような人に成長するためには、どのようにすれば良いのかをお書きください。
4. クリスチャンとして成長する秘訣は何だと思えますか？